

えーる！

平成 28 年号

 まちづくり応援団 えーる

もくじ

第 26 号

銀嶺の舞特集

第 27 号

靴職人 福山さん特集

第 28 号

山野草のエキ特集

第 29 号

鹿野のホタル特集

第 30 号

鹿野の風プロジェクトの雑木植栽特集

第 31 号

盆踊り特集

第 32 号

鹿野和紅茶特集

鹿野の冬はやっぱり“花火”！



花火と、
しーザー光線と、
音聲と、
君と見るシアワセ。

えーる！

発行：
まちづくり応援団えーる
URL：
<http://yell.link/>
Mail：
mail@yell.link

新年あけましておめで
とうございます！ 平成
二八年の幕開けですね。
まだまだ正月の余韻が
残る日々ですが、皆様は
いかがおすごしですか？
さて、新年最初の「えー
る！」では、過ぎ去った
平成二七年の最後を飾る
冬の風物詩「銀嶺の舞」
の様子をお伝えしたいと

思います。

「君と見るシアワセ。」

と題して行われた昨年の
花火大会の会場には、幸
いに雪も降らなかったた
めか、たくさんの方がやっ
て来ていました！ 鹿野

の人だけではなく、徳山
の方からもたくさんの人
がいらっしやっています、

すっかり鹿野の名物とし
てこの「銀嶺の舞」が定
着したんだなあとしみじ
み感じます。

総合体育館を会場にし
て行われた「銀嶺の舞」
ですが、まだ明るいうち
から有志の皆さんによる
たくさんの方の屋台が並び、
賑やかでしたよ。

花火が上がり始める前
は、会場の屋台やふれあ
いひろばで行われたステ
ージを楽しませていただき
ました。花火までの様子
は、裏面で詳しくお伝え
いたします。

花火が上がり始めたの

は夜七時からでした。

花火に先立ってレーザー
光線と音楽が夜空を彩り、
いよいよ花火が上がり始
めます！ 時間にすれば
三〇分もないぐらいの時
間でしたが、思わず息を
飲むすばらしいひと時を
味わうことができました！

屋外は非常に寒かった
ですが、花火を見上げて
いる時は寒さのことなん
か忘れてしまいましたよ。

平成二七年で、「銀嶺
の舞」は二二回目を迎え
ました。もしかすると、
子どもの頃に花火を見て
いた方が、今は自分の子
どもと一緒に空を見上げ
ていたかもしれません。
もしかすると、孫と花火
を見る日が来る……なん
てことも、あるかもしれ
ませんね！

これからもずっと、続
いてほしいイベント
だと思います。

「銀嶺の舞」は、花火だけじゃない！

会場には、たくさんの屋台が並んでいました！
おなじみの顔ぶれから、徳山の方からやってきたお店、鹿野中野球部によるお店などなど、目移りするほどたくさんのお店がありましたよ。
夕食時には、どのお店にも長い行列ができていました。広いと思っていた総合体育館の敷地が、人で埋め尽くされていましたよ！ わたしももちろん、ここで夕食をいただきました。



ふれあいひろばのステージでは、歌やダンスなどが披露されていました！ 写真はステージ最後のイベント、抽選会の様子です。左上の写真にあるチケットを何枚も握りしめてわくわくしていた方も多いと思います。わたしは残念ながら何も当たりませんでしたが、抽選会はドキドキして楽しいですね♪

木村市長が腕まくりして選んだ景品、当たった方はおめでとうございます！

こうして無事に終わった「銀嶺の舞」は、たくさんのスタッフの尽力の上に成り立っています。冬花火実行委員会、鹿野総合支所産業土木課の皆さん、屋台を出店された皆さん。そしてもちろん、来場された皆さんも、たくさんの人の絆が集まって今回も大成功で幕を閉じることができました。

まちづくり応援団えーるでは、平成二八年も皆さんの「がんばっている姿」を応援していきます！
今年も一年、ようしくお願いいたします。



靴で呼ぶ、鹿野への“一歩”



えーる！

発行：
まちづくり応援団えーる
URL：
<http://yell.link/>
Mail：
mail@yell.link

地元で造る靴、その思いをお聞きしました。

二月も終わり、だんだん春が近づいてきましたね！ まだまだ風は冷たいですが、日差しはだんだん春めいてきたように思います。

さて、皆さんは鹿野に靴屋さんがあるのをご存知ですか？ 大地庵にあった、旧三浦商店さんの店舗に工房を構えて、四月から開店予定のお店を切り盛りするのが、上の写真の福山さんです。

今回は、福山さんが鹿野にやってきた理由を聞いてみたいと思い、取材に行ってきました。

二月も終わり、だんだん春が近づいてきましたね！ まだまだ風は冷たいですが、日差しはだんだん春めいてきたように思います。

さて、皆さんは鹿野に靴屋さんがあるのをご存知ですか？ 大地庵にあった、旧三浦商店さんの店舗に工房を構えて、四月から開店予定のお店を切り盛りするのが、上の写真の福山さんです。

今回は、福山さんが鹿野にやってきた理由を聞いてみたいと思い、取材に行ってきました。

二月も終わり、だんだん春が近づいてきましたね！ まだまだ風は冷たいですが、日差しはだんだん春めいてきたように思います。

さて、皆さんは鹿野に靴屋さんがあるのをご存知ですか？ 大地庵にあった、旧三浦商店さんの店舗に工房を構えて、四月から開店予定のお店を切り盛りするのが、上の写真の福山さんです。

今回は、福山さんが鹿野にやってきた理由を聞いてみたいと思い、取材に行ってきました。

で他の国に来たような、そんな不思議な雰囲気を感じるんですよ」と話してくれました。

そんな鹿野の魅力を外部に発信しようと、鹿野でお店を構えることにしたそうです。

福山さんの作る靴は一つ一つが手作りです。完成するまでは、何度もお店に足を運んでもらう必要がありますから、当然何度も鹿野に足を運ぶことになりましたね。その中で、鹿野の魅力を知ってほしい、鹿野の外の人を、鹿野に呼ぶための方法にしたい、と思いを話してくださいました。

「靴」と「鹿野」。二つの物が一つに結ばれる、そんな橋渡しをされようとしているんですね！

靴ができるまで ～工房風景～

表面では、福山さんのお人柄、思いに触れさせていただきましたが、こちらではその製作の現場風景に触れてみたいと思います。どんな場所、どんな道具、どんな技術で、靴は生み出されていくのでしょうか？

工房の様子を、見させていただきました！

①木型を作ります。

まずは注文した方の足形を取り、木型を作るところから作業は始まります。

この作業に一番時間がかかり、足にぴったり型をとっても、実際に靴を作ると合わないことがあるんです。何度もお客さんに来てもらいながら、型を削ったり、逆に付け足したり……微調整を要求される、もっとも難しい工程なんです。

②靴を縫います。

「これで足に合う！」という確信が持てたところで、いよいよ靴を作り始めていきます！

丈夫さが必要な靴のふちを革すき機を使って補強したりという作業を行いながら、ミシンを使って靴を作っていきます。福山さんに実際に使っていただいたのは「18種ミシン」という、とても細かな縫い目のミシンを使っていた写真です。とても細かく、集中力が必要な作業ですね！

そして右の写真のように、しだいに靴の形ができていきます。まだ靴底はついていませんが、かなり靴の形になっていますね。

靴が一足できるまでには、材料を揃え、木型を作り、靴を縫い……という工程で、なんと2か月もの時間がかかるのだそうです！

★靴を直します。

こうしてできあがった靴ですが、使い込んでいけば当然ぼろぼろになってきちゃいますね。

福山さんの工房では、靴を作るだけでなく、靴の修理も行っているんですよ。

はき続けて、ぼろぼろになってしまった靴をお持ちの方は、一度ご相談してみてもいいかなですか？

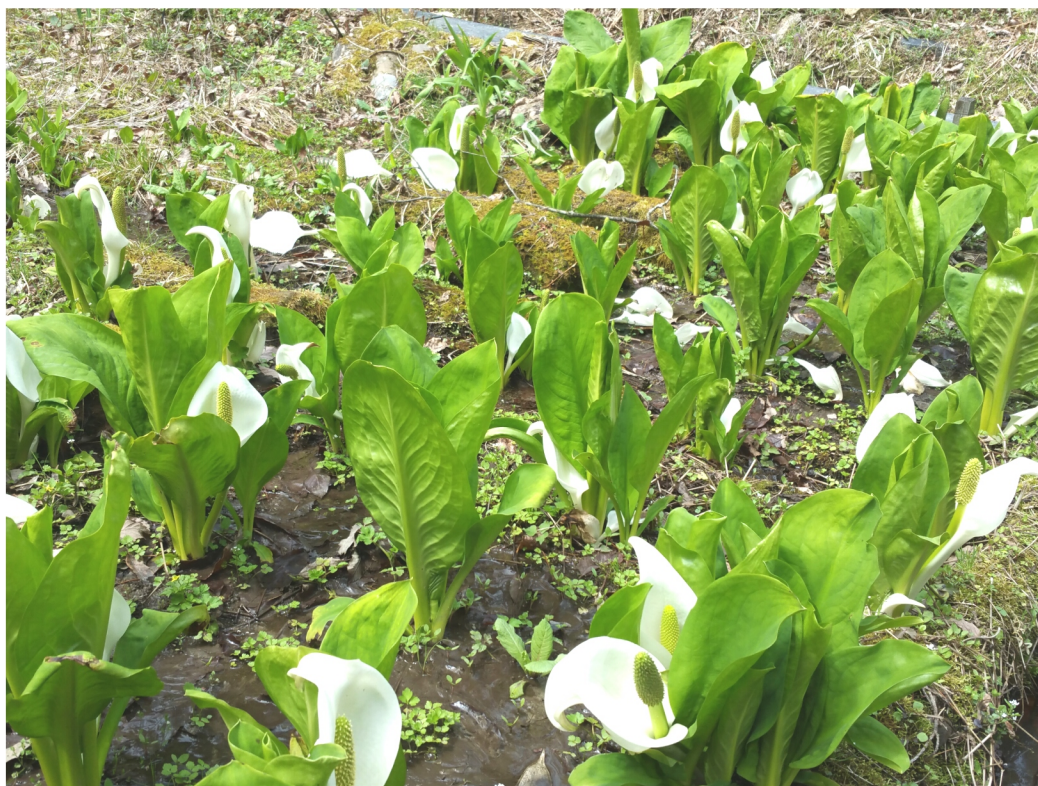


ご相談は、
こちらまで
どうぞ！

エキの山野草、ご覧あれ

えーる！

発行：
まちづくり応援団えーる
URL：
<http://yell.link/>
Mail：
mail@yell.link



「山野草のエキ」の見ごろ、到来です！

いつの間にか田植えの季節ですね！ この時期は、一年前に「えーる」

で取材した、石鍋団地の「山野草のエキ」が見ごろを迎える時期でもあります。

現在エキを管理しているのは「山野草のエキ」保存の会の皆さんです。毎月一・三週の水曜日に活動されておられ、会員数は、なんと一六人に増えていっています！

会員は鹿野の人はもちろんですが、遠くは山口市や岩国市からも参加されています。この会に参加したい、という方はどんどん増えていっています。

会の活動は、倒木を片付けたり、歩きやすいように階段を作ったり、防獣対策の柵を設置するな

ど……山の管理が中心になっています。

中には、保全活動の手助けをされるだけではなく、新しく八種類もの山野草をこの場所に植えてくださった方もいらっしゃいます。

一七年もの間、一人でエキの管理を続けてきた伊藤芳高さんのご遺志を引き継いでいるだけ、という話ですが、鹿野内外の皆さんが地道に保全活動を続けているからこそ、この「山野草のエキ」が支えられているのだと思います。

このエキを見るために、遠く下関や北九州市からも鹿野にやってくる方がいるそうです。

実際、わたしがエキを取材しに行った時も、エキを歩いている方が何人

もいて、「すごい！」「素敵！」と感動の声を聞くことができました。

たくさんの方が植えられていいますから、秋頃まで色々な花が咲いていて、長い期間花を楽しむことができます。でも、一番の見ごろはやっぱり今！

エキへの立ち入りは自由なので、一度散策に訪れてみるのも楽しそうです。きつとその花の種類が多さに、びっくりされると思いますよ。

ちなみに上の写真は、四月ごろに咲いていた「ミズバショウ」の花です。エキの中には浅い池も作ってあって、その水の中にたくさん白い花を見ることができました。続いて裏面で、エキの様子を紹介していきます！

「エキ」を歩いてみました ～春の花探訪～



4月・5月と二度取材に訪れましたが、エキにはたくさんの花が咲いていました！

それぞれの花の近くには名札がつけてあるので、花の名前がわからなくてもすぐわかるのがいいですね。

左の写真は4月に撮影したスイセンの花です。高い所に咲いていたので、近くに行っても撮影することはできませんでしたが、かなりたくさん咲いていましたよ！

ちなみに、道の近くに植えられたスイセンも見かけました。あちこちに同じ種類の花が植えてあるので、遠くから眺めたいときも、近くで見たいときも、すぐ同じ花を探することができますよ。

出口付近は、かきわけないと道がわからないほど、花が咲いていました！

山の急な斜面を下りながらなので、足元に注意しながらの撮影になりましたが、ピンク色の花はとてもきれいでした。この写真の場所だけではなく、かなり長い距離にこの花のトンネルができていて、順路の最後を飾るのにふさわしい華やかさでしたよ。

この他、今は咲いていませんが「藤袴（フジバカマ）」と書かれた名札がありました。「旅をする蝶」であるアサギマダラのやってくる、あのフジバカマのことと思います。もしかすると、このエキにもアサギマダラがやってくるのかも！？



残念ながら写真では花の美しさだけしかお伝えすることができませんが、エキでは風の音、鳥の声をたくさん聞くことができました。

動物の姿を見ることはできませんでしたが、エキの中に作られた池にはオタマジャクシが泳いでいました。花以外の命も、たくさん息づいているんだな、と感じさせられました。わたしはこのエキを何度か訪れていますが、山野草以外にもたくさんの見どころがあって、飽きがないんですよ。

是非、皆さんもエキに足を運んで、たくさんの山野草、風や鳥の声を感じ取ってみてくださいね。

蛍の舞う季節です



えーる！

発行：
まちづくり応援団えーる
URL：
<http://yell.link/>
Mail：
mail@yell.link

夕涼みに、 蛍を見に行きませんか？

梅雨の季節ですね！
雨でじめじめした天気が
続いています、皆様は
お変わりなくお過ごしで
しょうか？

そんな雨の続く6月、
夜にはちょっとしたお楽
しみがあるんですよ。そ
う、蛍です！

鹿野で蛍を楽しむイベ
ントと言えば、大潮の
「大潮ホタル祭り」や、
豊鹿里パークの「ホタル
のタペコンサート」が有
名ですね。両イベントの
会場に足を運んで、蛍を
楽しめた方もいらっしゃる
と思います。

家の近くまで蛍が飛ん
でくることもありますね。
わたしの家の周りでも蛍
が飛んでいるのを見かけ
ます。窓から蛍が迷い込
んできた、なんてことも
ありました。蛍が部屋に

入ったまま寝ようと思っ
たら、壁でじっとしてい
た蛍が急に光り始めたん
です。光が気になって寝
付けなくなるほど、狭い
部屋の中では明るく輝い
ていたんですよ。その光
の強さには、びっくりし
ました！

ちなみに、家の近くで
見かけた蛍は「ゲンジボ
タル」という種類の蛍で
した。上の写真のような
頭が赤い蛍です。より小
型の「ハイケボタル」
「ヒメボタル」という種
類もありますが、ゲンジボ
タルの方が光が強く、見
ごたえもあるんですよ。

そんな蛍がよく飛ぶ時
間は、夜の七時～九時頃
なんです。日が長くなっ
てきているので、真っ暗
になるのは八時頃かな？
懐中電灯片手に近くの

川に行ってみるといいか
もしれません。でも、強
い光を浴びると蛍は光ら
なくなってしまうです。

上の写真を撮影したとき
にはカメラのフラッシュ
をたいたんですが、しば
らく蛍が光らなくなっ
てしまいました……。鑑賞
する時は明かりを消して
なるべく暗くして見てく
ださいね。

多少濁った水でも生息
できるハイケボタルと違
い、ゲンジボタルはきれ
いな水でないと生きてい
くことができません。き
れいな川を守ることが、
きれいな蛍を見続ける秘
訣なんです。蛍を毎年
楽しむことができるのも、
水のきれいな鹿野ならで
はのこと。いつまでも、
きれいな鹿野の川を守っ
ていきたいですね！

雨上がりは、橋に行こう！

蛍は川沿いの土手を飛んでいることが多いので、蛍を眺めるなら橋の上から見るときれいです。渋川と錦川沿いから「これは！」という場所をご紹介します。雨上がりは蛍が飛びやすいので特におすすめですよ。是非、足を運んでみてくださいね♪



石船温泉前を流れる渋川にかかる、「権地（ごんち）橋」からの眺めです！ 渋川の水はとても澄んでいて、水面には土手の木々が映り、川底を見ることが出来るほど透き通った水が流れているんです。

夜になると、写真奥側の木々の辺りを、小さな緑色の光がいくつも飛び交っているのが見えました！ 車を止めやすい場所なので、行き来もとても楽なんですよ。

こちらは錦川流域、山口銀行の保養所があった場所の手前にかかる橋からの光景です！ 周囲が木々でおおわれていて明かりが少なく、蛍の小さな光もばっちり見ることができました。あちこちから蛍を見るために人がやってくる、隠れた名スポットなんですよ。

大潮方面は6月下旬が一番蛍が飛ぶので、暗がりを楽しむ蛍の様子を、見に行ってみてはいかがでしょうか？



渋川と錦川の合流地点近くにあるここ堤橋も、実は隠れた蛍スポットです。川の真ん中にある繁み、写真右側の土手付近に、たくさんの蛍が飛び交っていました。

実は、表面の蛍の写真もこの付近で撮影しました。蛍をかなり間近で見ることが出来るんですよ。

比較的町なかなので、ちょっとそこまで……という感覚で、足を運ぶことのできる場所でもあります。

雑木で吹く鹿野の“風”

えーる！



発行：
まちづくり応援団えーる
URL：
<http://yell.link/>
Mail：
mail@yell.link

鹿野の木は、ゆっくり、ゆっくり、育っています

今、鹿野のあちこちに

雑木が植えられているの
をご存知ですか？ これ
は鹿野の店主が中心になっ

て結成された「鹿野の風」
プロジェクトさまによっ
て植えられたものです。

「鹿野の風」プロジェクト
ト発足は平成二三年。鹿
野に住む人口「定住人口」

を増やすため、まず鹿野
を訪れる「交流人口」を
増やし、鹿野を元気にし

たいという思いから始ま
りました。七店舗で始まっ
たプロジェクトも、今で

は一四店舗まで参加する
お店が増えています。そ
の活動は、県内の道の駅

などに置かれた「鹿野の
お店マップ」やテレビ放
送、県内の経済等を掲載

する冊子「やまぐち経済
月報」の取材を受けるな
ど、各所で紹介されてい

るんですよ。

手始めに企画された期
間限定の特別メニュー販
売の様子は「えーる！」

でも何度か取材させてい
ただきました。しかし、
たくさんの方がくると、

鹿野の魅力である「ゆっ
くりした時間の流れ」を
感じにくくなってしまっ

たのも事実でした。ゆっく
りした空気の中で、心地
よい時間を過ごしてほし

い……そんな思いから、
鹿野ならではの景観を作
るため、この植樹計画が

始まりました。三年前か
ら、上の写真のように手
作業で植樹が始まってい

るんですよ。
「鹿野の風」プロジェク
トの参加店舗が増え、活

動が紹介され、どんどん
大きくなっているのと同
じように、植えられて間

もない、細く頼りない印
象を受ける木も、五年十
年と時間が過ぎれば大き
く育ち、立派な木陰を作
ることでしょう。

いつか、大きく育った
木の下、暑い日は木陰の
ベンチで一休み……なん
て光景が、鹿野のあちこ
ちで見られるようになる
と思います。その頃には、
たくさんの方の取り組みが実
を結び、今よりもっと素
敵な鹿野ができていくの
ではないでしょうか。

鹿野の人口は、一五年
後には三千人ほどになる
見込みです。だけど、み
んなで鹿野を変えていけ
ば、この見込みをくつが
えすことができるかもしれ
ません。

鹿野の未来をつくる
「風」を、みんなで起こ
していきましょう！

町なかの“雑木”たちを訪ねて



「鹿野の風プロジェクト」の尽力で、鹿野のあちこちに雑木が植えられ始めています！ この紙面では、特に町なかにある木々に焦点をあてて、植えられた木々をご紹介します。

「えーる！」27号でご紹介した、靴を作られている福山さんの工房の横です。電信柱の横に、木が植えられていますね！ まだまだ細く小さな木ですが、これからどんどん大きく育ってくれそうです。



こちらは、旧活鮮ストアの駐車場に植えられたものです。周辺が石で囲ってあって、ちょっとした庭のような感じもしますね！

駐車場だったためアスファルトに囲われた場所ですが、緑があるとなんだか心が落ち着くような気がします。癒し、ですね！

「いっておかえり 鹿野市」でもおなじみの鹿野ブランド創出研究会さまの企画で、鹿野の町なかには風鈴がつるされています！

雑木の写真撮影のために町なかを歩いていると、風に揺れてガラス製の風鈴が「からころ」と音を立てていました。風鈴はもともと、魔よけの器具として使われ始めたそうですが、しだいに暑気払いのために使われるようになってきました。今でもこの音を聞くと、なんだか気持ちもちが涼やかになってきますね。町なかを散歩する時は、風鈴の音も楽しんでみてくださいね♪



夏といえば盆踊り！



えーる！

発行：
まちづくり応援団えーる
URL：
<http://yell.link/>
Mail：
mail@yell.link

鹿野のお盆を彩る、「ちゃんち」の口説きと太鼓の音♪

朝晩はだいぶ涼しさを
感じるようになってきま
したね。今回の「えーる」

では、夏の風物詩である
盆踊りの様子をお伝えし
ていこうと思います。

上の写真は、特別養護
老人ホームやまなみ荘さ
まの盆踊り大会です。提
灯がともる中、皆さんが
踊っていたのは「やまな
み人生音頭」。これは日
本舞踊の会である山村会
さまの協力によって作ら
れたものなんですよ。

やぐらを囲んでたつテ
ントでは、やまなみ荘の
利用者の方々が踊りを眺
めていました。他にも大
会に協賛されている鹿野
ファーマーズの出店があっ
たり、子ども達に大人気
の射的コーナーがあった
りと、明るいうちからた
くさんの人が集った会場

は、とてもにぎやかで楽
しい雰囲気でした。

鹿野の盆踊りは、かつ
ては初盆の家の前で踊り、
その家の人が踊る人をも
てなす、という風習でし
た。今ではやまなみ荘さ
まのように、一か所に集
まって踊るようになって
きていますね。

この時期には鹿野のあ
ちこちで盆踊りが催され
ています。その際に踊り
の音頭として唄われてい
るのが「口説き歌」です。
元々、歌の多くは江戸
時代の末期に作られた人
情唄でしたが、その親し
みやすさから、盆踊りの
口説きとして歌われるよ
うになっていったんです。
口説き歌は「あらようい
やさ」「あらえんえのえ
んえのさーあのさ」とい

う合いの手を交えながら、
太鼓の音とともに盆踊り
を盛り上げます。現在は、
写真の紅白幕にも名前が
見える鹿野さんさ保存会
さまがこの口説きや太鼓
の技を伝えていらっしや
るんですよ。

毎年、鹿野の各地で行
われる盆踊りの開催には、
たくさんの人たちが関わっ
ていることを感じます。
さんさ保存会、山村会、
踊りを主催される、各地
区自治会・各団体……そ
してもちろん、会場に参
加者として足を運ぶ皆さ
まもいて、素敵な時間が
生まれているのだと思い
ます。

お盆で帰って来たご先
祖様も、にぎやかな会場
の様子に、大満足のこと
と思いますよ。



コアプラザ前でも盆踊り♪

仮装盆踊り大会!

八月一五日には、周南市社会福祉協議会鹿野支部さまにより、コアプラザの前で仮装盆踊り大会が行われました！ 大会前に開かれた慰霊祭では、鹿野仏教団である沙羅の会さまの読経があり、今年初盆を迎えた故人をしのびました。

外ではまだ明るいうちから鹿野さんさ保存会さまが準備を進めていらっしゃいました。だんだんと周囲が暗くなっていく中、さんさの口説き文句が聞こえ、太鼓が鳴り始めます。浴衣姿、普段着、思い思いの姿の人たちが会場に集まり、約二時間の間、威勢のいい口説き文句と太鼓の音に乗せて、踊りは続いたんですよ。



この盆踊り大会は「仮装」と銘打ってあるように、仮装大会でもあるんです！ 踊りの途中から、ゲームのキャラクターだったり、スイカに扮してみたり、色々な姿の皆様が加わり、会場を盛り上げました。初盆を迎えた故人の皆様も、きっと楽しい時間を過ごすことができたと思います！

踊りの様子は「えーる！」のホームページから見ることができます。写真では伝わらない口説きの声、踊りの様子を、ご覧になってくださいね♪



誕生、“天空の紅茶”



えーる！

発行：
まちづくり応援団えーる
URL：
<http://yell.link/>
Mail：
mail@yell.link

ほつとする、鹿野の味。鹿野和紅茶に魅力あり！

早いもので、平成二八年も終わりが見えてきましたね！ 気候も秋というより、もう冬のような寒さになってきました。

今回は十月二九・三〇日に開催された「いっておかえり 鹿野市」の中で販売されていた、新しい鹿野茶をご紹介します！

これまでも鹿野茶については何度かご紹介してまいりましたが、それはあくまで「釜炒り」など、日本茶としての飲み方でした。しかし、今回はなんと！ 鹿野茶を紅茶にしてみようという試みがなされたんです。

生産者の一人である安永さん曰く「天空の紅茶」。それは、いったいどんなお茶なのでしょう？

日本茶も紅茶も、同じ茶葉から作られるもので

すが、加工の方法が、お茶の姿を大きく変えるんですね。紅茶は茶葉を発酵させて作るもので、緑茶には「初摘み茶」があるように、若い葉を使う

ことがあります。この紅茶は七月八月まで育った茶葉が適しているそうです。成長した茶葉を手で摘み、ていねいに手間暇かけて精製したのが、この「鹿野和紅茶」というわけです！

それでは、肝心の味の方はいかがでしょうか。鹿野市で販売されていたこの鹿野和紅茶をいただいてみました。

暖かい紅茶から漂う香りは、まさに紅茶そのものの。ですが、その味は…砂糖を入れないで飲んだにも関わらず、釜炒り茶としていただいた時の

ような、どこかほつとする、やさしい味でした。

天空の地と言うにふさわしい、鹿野の高原で生まれた紅茶は、ゆっくりとした鹿野の雰囲気そのものを表現したような、ほつとする紅茶であると感じました。これぞ鹿野の紅茶と言うのに、ふさわしい味だったと思います。

この紅茶は、「朝霧紅茶」の名前で、すでに大田屋さんで販売が開始されています。皆さんぜひ、この味をお試しください。



鹿野茶の歴史

以前、「えーる！」でも取り上げましたが、今回もう一度鹿野茶についても触れておこうと思います。

鹿野とお茶の関わりは、一三七四年に漢陽寺を開山された「用堂明機禪師」が中国からお茶の種子を持ち帰られたことから始まります。江戸時代には、藩主の飲茶用にもご用命をうけるばかりか、江戸への献上品となるなど、全国的なブランドともいえる存在だったんです。明治時代に製茶は全盛期を迎え、鹿野から神戸・長崎に派遣され外国人向けに製茶の方法を教える方がいらっしやっただなど、鹿野はお茶については先進的な地域だったことをうかがわせます。

かつては農家の副業としても奨励され、年間八トンもお茶を製造していた鹿野ですが、現在は自家用中心の細々とした生産を行うにとどまっています。しかし、かつての名残か、今でもお茶の木は鹿野のあちこちに息づいているんですよ。「えーる！」でも折に触れてご紹介してきた、鹿野茶の甘味を感じてのようなおいしさの裏には、六〇〇

年以上も続く「鹿野茶の歴史」が隠されているんですね。

鹿野茶の新たな歴史

今回紹介した「鹿野和紅茶」の誕生は、長年続いてきた鹿野茶の歴史に、新しい一ページを刻むことになった出来事だと思います。

この紅茶が作られるきっかけというのはごく単純なものでした。「鹿野茶で紅茶ができないだろうか……その思いつきが、新しい歴史の始まり。すべてが手作りの鹿野茶ですから、紅茶にする作業も、手間暇を惜しまなければ行うことができたんです。

生産者の一人である斎藤さんは、元々の紅茶好きが高じて、鹿野茶の加工を始めました。三年間の試行錯誤の末、ついに納得のいく紅茶を完成させたんです。鹿野和紅茶は、決して一朝一夕に生み出されたものではないんですね。鹿野和紅茶は、手作りゆえに農家それぞれで味や風味が少しずつ違ってきます。生産者である安永さん、斎藤さん、そして農家レストラン「たぬぎ」の寺戸さんのお茶を、それぞれ飲み比べてみても楽しそうですね。

鹿野市で堪能しました

わたしが「いつておかえり 鹿野市」を訪れたのは三〇日でしたが、すでにお持ち帰り用の鹿野和紅茶の茶葉は売り切れていました。大人気ですね！

会場では従来の製法で淹れられた鹿野茶もふるまわれていたので、どちらの鹿野茶も味わうことができました。同じ茶葉からできていただけあって、やさしい味は共通していましたが、製法一つでこんなに違う風味になるものなのか、と驚いたものです。

鹿野市では、上市自治会の皆さんによる野菜たっぷりの豚汁販売や、炭火で焼いた「焼き柿」が無料でふるまわれるなど、他にもたくさん「秋の味覚」を味わうことができました。会場では鹿野中学校の生徒さんがスタッフとして参加され、若い元気な声が響いていました。今回で一〇回目の「鹿野市」は、鹿野茶以外にも大盛況でしたよ！会場にはにぎやかな声が響き、あちこちで久しぶりに会った友達と挨拶を交わしたりと、笑顔の絶えない素敵なイベントになったと思います。次回の鹿野市も、こうご期待！

次は花火ですよ♪

会場では、十二月に開催予定の、かの冬花火「銀嶺の舞」のPRも行われていました！来月に開催を控えた銀嶺の舞も、二〇年以上続く、鹿野の冬を語るに欠かせない風物詩になっています。イベント成功のため、一発でも多い花火を打ち上げるためにも、皆様の協力が必要です。現在、協賛金の受付を鹿野総合支所産業土木課等で行っています。平成二八年ももう少しですが、最後の最後まで、鹿野をにぎやかに盛り上げていきましょう。

